

# ものづくり連携支援事業 プロジェクトレポート

管理機関名：公益財団法人 三重県産業支援センター

## プロジェクト名

### 国内中小企業の連携・集結による航空機体部品の一貫生産体制構築

事業の背景（地域・産業の特性、市場が抱える課題・ニーズ等）

国内の民間航空機産業は、今後も年5%で伸長する世界需要や、平成27年秋に初飛行を予定している国産旅客機MRJの量産開始等による作業量の増加が見込まれている。従来より国内航空機産業の部品製造中小企業は、QMS(品質管理)や生産管理は国内重工各社の仕組みを利用することで、自社固有技術の深化に注力してきたが、今後の部品生産量の増加や、B777X等の新機種開発に対応する為には、中小企業各社が自社の前後工程も含めた部品製造工程全体での生産仕組の効率化に対応することを求められており、単工程スペシャリストからの脱却を求められている。このためには、北米部品メーカーでは一般的である、自社工程以外も外部補完により部品を完成する会社間連携や自社機能の拡充による「総合力」の向上が必須となっている。

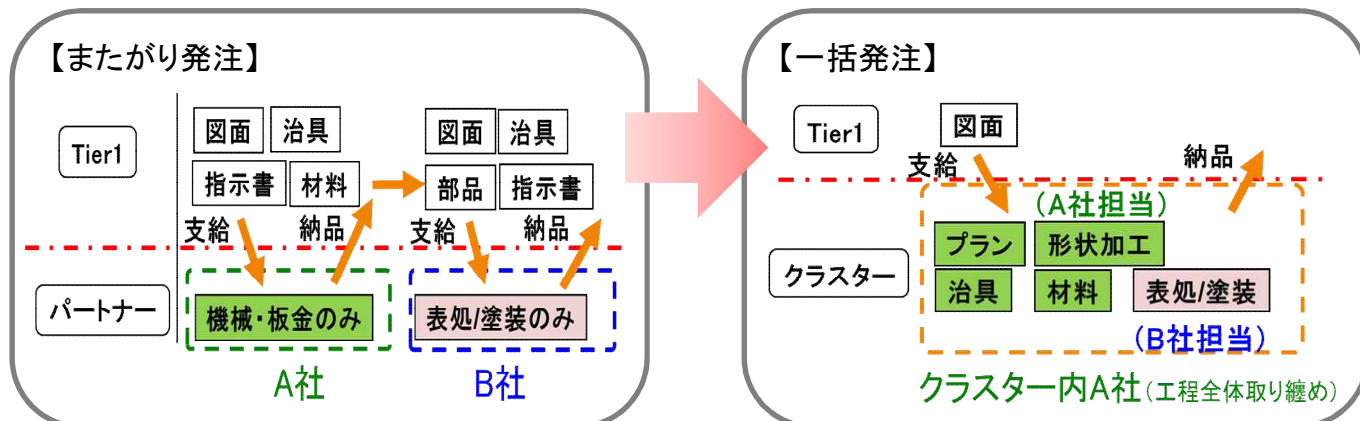
事業の狙い（製品／市場・用途、提供する価値、新規性・優位性等）

従来より単工程のスペシャリストとして航空機体部品製造を担ってきた中小企業が同一建屋に集結し、自社工程以外を他社と協業・補完しつつ、自動車産業の部品製造における生産管理・物流仕組を応用することにより、高効率一貫生産体制の実現を目指す。具体的には、①各社の固有技術をつなぐ仕組の強化により工程全体を効率よく管理する仕組の構築、②共通作業/インフラの集約・一元化や周辺作業(運搬・梱包・検査等)の効率化による効率化・省力化、といった「総合力」向上のための課題克服に向け、「ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業」を活用して、コンソーシアムメンバー間の協業・補完による部品一貫生産仕組作り、コンソーシアム運営のための体制・ルール作りを行う。これにより、独立性の強い国内中小企業間において、フラットな関係を維持した企業連携事業体を醸成し、自社工程以外を相互補完した共同一貫生産体制の実現を目指す。

## 連携・グループ化の目的・期待効果

From（技術、製品、仕組み、販路等）

To（技術、製品、仕組み、販路等）

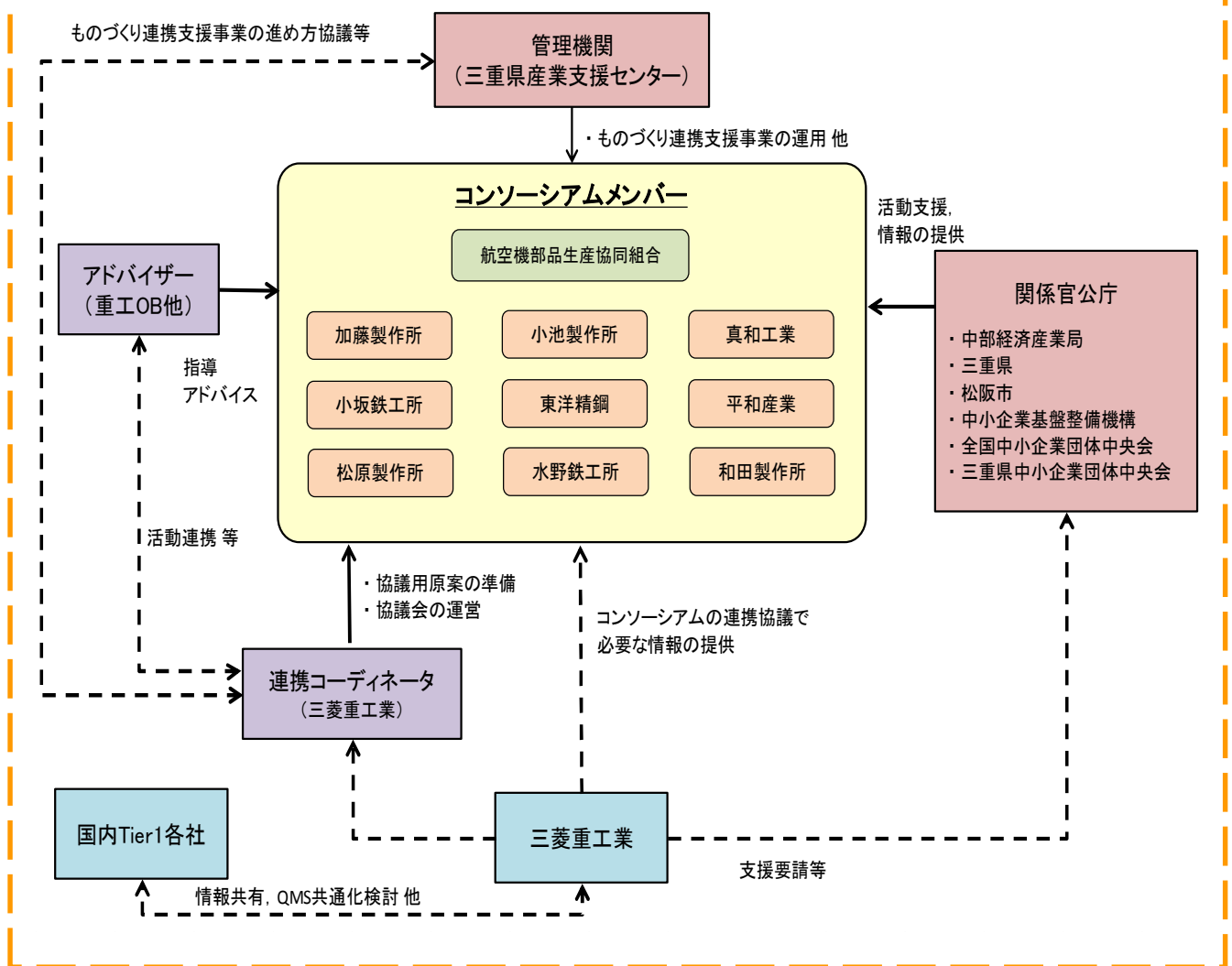


## この事業実現のためのキーファクター

コンソーシアム参画各企業が、共同生産体制構築に向けたあるべき姿を共有し、自社所掌範囲を超えた仕組み全体を俯瞰し、自社都合だけでなく共同体都合も考慮した上でのベクトル合わせが重要。

具体的な事業運営(部品生産)開始を見据えた共同体(事業協同組合)を創設し、共同体全体としてのメリットを考慮した合意形成を目指す。

## コンソーシアム又はグループの構成



## コンソーシアムの決意表明

自動車産業や企業連携等の有識者から指導・助言を受けるとともに、関係行政機関、国内Tier1(重工各社)とも連携を図る。

当該事業の「連携コーディネーター」をファシリテーターとして、コンソーシアムメンバー各社を主体とした一貫生産立上げ準備活動を行う。一貫生産仕組構築に必要な要素毎に分科会を形成し、具体的な仕組やルールを作り込む。